

「光岳の山頂付近でクマの目撃情報」

わたしは本を読むことが好きで、罨(ひぐま)関係のものは好んで読んでいます。いくつかあげてみると、まず最近のものでは河崎秋子「ともぐい」がおもしろい。

吉村昭「罨嵐」は北海道に内地から人が入り、開拓が始まった頃の悲惨な出来事がもとになっている。怖い話。

久保俊治「罨撃ち」は、職業作家ではない猟師が書いた本で、生涯これ一編だけのようだ。この本も残りページが少なくなってくると、ちょっとさびしくなってくる一冊だった。

久保さんの後日談が気になって探したら、おもしろい物を見つけた。この人、猟師生活を切り上げた後、漫画描きと結婚して牧場をやっていた。

「牧場？んんん？」いろいろあたっていたら、映像として作られ、DVD で発売されていたのを探し当てることができた。北海道放送で作られたドキュメント「大草原の少女 みゆきちゃん」である。牧場で子供を育てる日常が活写された秀作である。

お父ちゃんが「野良犬とかクマなんかいても普通にしていればいいんだからな」

みゆきちゃん「はい」

お父ちゃん「気をつけて行くんだぞ」

みゆきちゃん「はい」

一年生のみゆきちゃんは1時間半の道なき道を、一日も休まず、一人で通学する。

連続ドキュメンタリーの総集編が一枚のDVD にまとめられている。

すてきな、知床のみゆきちゃんのDVD は私の所にあるので、いつでもお貸しします。「DVD 貸して」といってください。

光岳小屋に続くコケの木道



さて、光岳の話。

光岳山頂付近に「いた」という目撃情報。

私たちは残念ながら、山中、姿はおろか爪痕や足跡も見かけなかった。

「クマ」というと恐れる人もいるが、わたしは「少し離れて」遭遇したい。でも、人の臭い、話声、くま鈴をならしては、いたとしても、遠くからこちらを観察しているだけだろう。クマは人に会いたくないらしい。クマに限らず、ほかの動物たちにしても、なるべく人に会わず静かに暮らしたいと思っているのではないか。

光岳。その山は南アルプスの最南端とされる。もっと南は深南部といわれ池口岳や、南は大無間山へつながる山塊を連ねている。いつか、そちらへ分け入ってみたいと思ううちに月日が過ぎた。

よく手入れのされた登山道が延びているのは光岳までで、その山はまた、ハイマツの自生する最南端といわれる。そこへ行って高山植物や、深い森に生きる生き物の様も見たいと計画した。小屋泊は避け「手作り感」ある山行にしたい。ために、必然、東海フォレストのバスは利用しないことになる。

最終日に赤石温泉でゆったり過ごしたいという気持もあったので、飯田側の平岡から入り畑薙へのルートを選んだ。

易老渡(いろうど)から光岳小屋への一日分の登りとして 2000m は結構な登高差であるが、反対の畑薙側からだって茶臼小屋のテント場までは 1600m だから、どっちから行っても簡単ではない。

7/24

新幹線の豊橋から飯田線に乗り継いで平岡に向かうが、大雨による倒木で3時間と大幅に遅延した。平岡に一台しかないタクシーの予約変更は運良くできた。芝沢ゲート着は4時間遅れ。それでも明るいうちに易老渡につくことができた。

テントを張り、それから、まずは沢水を汲んできて「甲州」の水割りをやり、あらかた空にしたところでシュラフに入った。明日は早い。

夏用シュラフでも暑く、半身を出して寝た。

7/25

4時過ぎ。ヘッドライトの明かりに浮かぶ橋を渡り、すぐ登りにかかる。(この橋は地図には吊り橋とあるが普通の橋である)急登ではあっても歩きやすい登山道で終始する。いつも歩く三浦の山道のように藪や崩壊箇所もない整備された道が続く。朝のきれいな森に流れる空気がとても気持ちいい。ただし登り、登り、そして登り一辺倒である。でも都合良く、一時間ぐらい登ると傾斜がゆるみ、ちょうど良い休憩場所があらわれて、良いリズムで登ることができた。

橋から 1600m の標高差を登り易老岳に着いた。ここは茶臼岳との分岐になっており、私たちは今日の泊まり場、光岳方面へ向かう。

まずゆるい下りが三吉平まで続く。

三吉小屋があったと言われるあたり、ちょっとした湿地の太い湿った倒木に腰をおろした。じゅっ、としみ出してくる水が尻を濡らして、いっそ気持ちが良い。

汗を拭いながら、木立の向こう、南に向かう道に目をやった。地図で見るとおりの谷地形がずっとつづいているようである。

樹林を透かしてみる道のその先は、岩がゴロゴロとした涸れ沢の登りに続いている。あと 400m 登れば、そこに静高平の水場がある。「静高平＝旧制静岡高校山岳部の登頂、幕営に由来する」といわれる。

小一時間も登ったところ、土混じりの柔らかい道に変わり、木立の向こうが稜線らしい様子を見せる。空が近くなった気がするころ、最後の頑張りで冷たい水の流れ出す静高平についた。

休憩。水 2 リットル補給。

水場からはゆるやかな登り、ひと登りすると、なだらかな草地が広がる。少しいたんだ木道があらわれ、名前を知らない白いコケや草花があたりを埋めていた。霧が流れると、淡い日差しがあたりが明るくする。

平地の向こうに小屋が見えてきた。向こう側に回り込んだところが入口のようだった。

「ああ着いた」

小屋の縁台わきに荷を下ろし、まずやることはテント張りの申し込み。そして一番大事なのはビール二缶と地酒を升で四つの購入。一度に頼んだら「大宴会ですね」と管理人の小宮山花さんに、にこにこ言われた。「はい、そうです」

「花さんの顔を見に来ました。・・・テレビで・・・」杉澤さんが明るい声でやりとりしている

「どうぞいっぱい見てください」受付の人が応ずる。

地酒の二種類。ますの中のコップに威勢良く注いでくれた。あふれるくらいに気前よく。

午後の澄んだ空気の中で「うーんん・・・うまい」



折れても！生きる木々

明日の出発は明るくなってからと決めたので、外で、またテントでゆっくり過ごした。夜間は少し寒かった。小屋付近は平地より 15℃ ぐらい低いはずだ。

7/26

5時過ぎ、うす明るくなってから光岳に向かう。やがて日が差してくる。木漏れ日がシダやハイマツの新梢にあたりだした。

その際立つ明るい緑に杉澤さんは「おー！とも、わあ！」ともつかない声をあげていた。わたしは息をのむだけだった。

光岳の山頂は太く立派な木製の標柱が立っている。眺望はない。それでも山の良さが変わるものではなかった。光石(てかりいし)へ向かってすぐ、南面が開ける。光石に達すると西北面まで見通せるようになって眺望は一層良くなる。

しかし光岳の良さは思うところ植生の良さ、森の良さにこそあるように思う。

クマに会えないのは残念ではあるが、人の気配や熊鈴のやかましさを思うと無理からぬことだろう。

光石から登路を戻り、光岳小屋でテントをたたむ。

今日は易老岳まで戻り、茶臼岳を越えて横窪沢小屋に下ってテント泊の予定である。

茶臼岳まで、距離はあっても大きな高低差はなく、おだやかな森の中の楽しいハイキングになった。

仁田池で一休み。

茶臼小屋では冷えたコーラを飲み、今夜のためのビールと日本酒を仕入れた。

下りは歩きやすい登山道がつづいている。横窪沢小屋には3時過ぎについてテントを張った。

小屋は無人だが登山者に開放されているようで、中はきれいに整えられている。ただし便所



横窪沢小屋

は外部者専用の所だけが使えるようになっている。用便後の紙などは持ち帰ることになっている。

ここまで来ると標高が低いので、やはりテントの中は暖かい。

明日は少し早めに出よう。

7/27

暗いうちに出かけた。沢を渡って峠に出るころ明るくなってきた。横窪峠まで登り返し、そこから尾根を下る。ウソッコ沢小屋について休憩。ここも無人だが開放されている。地元の井川山岳会が清掃などに尽力してくれているようである。小屋から先はずっと沢に沿った登山道が続いている。

ヤレヤレ峠をこえて下ると畑薙大吊橋に出る。橋を渡ってしばらく歩くと沼平ゲートにつく。ここは茶臼岳登山口へ向かう人のための駐車場になっているようだ。さらにダム沿いの舗装道路を2時間ほど歩くと静鉄バスや樫島方面へのバスの発着所に着く。

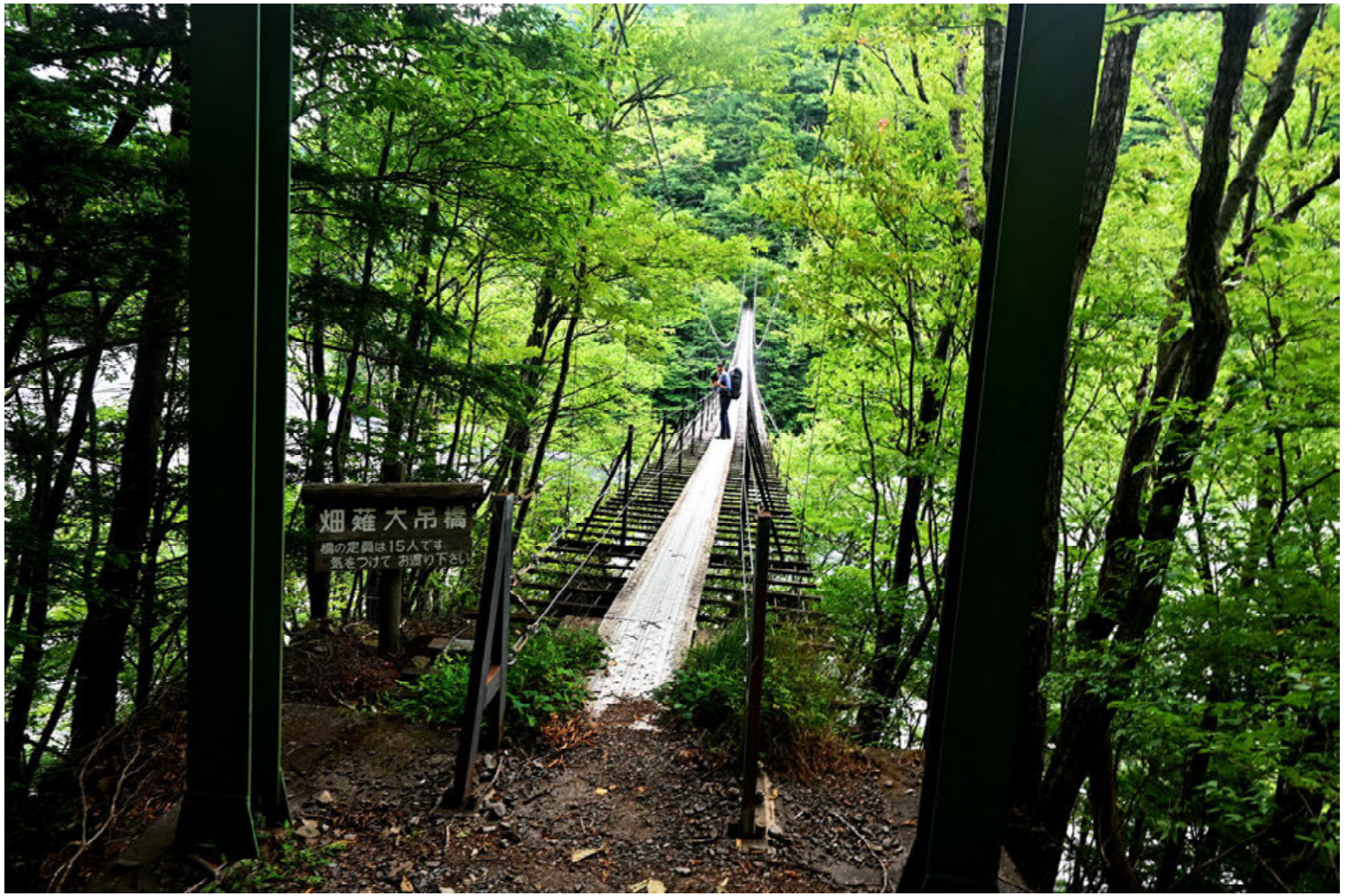
私たちは、その先の赤石温泉へ向かうため畑薙第二ダムをめざして、さらに舗装道路をたどった。

静岡市営の赤石温泉・白樺荘には早く着いたが泊まることにした。バスの便がない。

静岡のタクシー会社はここへは来てくれないようだ。管理人に聞いた千頭のタクシーに電話した。明日8時半なら来てくれることになった。千頭からは川根本町コミュニティバスで大井川本線の駅まで行くことができる。そして金谷からはJRにつながっている。これで帰りの経路も決まり、あと、ゆっくり湯につかってすごした。

畑薙大吊橋





畑薙大吊橋

GPX データ 沿面距離 40.1km

累計高度(+) 4,064m

累計高度(-) 3,915m

7/24

芝沢ゲート(16:30)・・・易老渡(18:00)テント泊

7/25

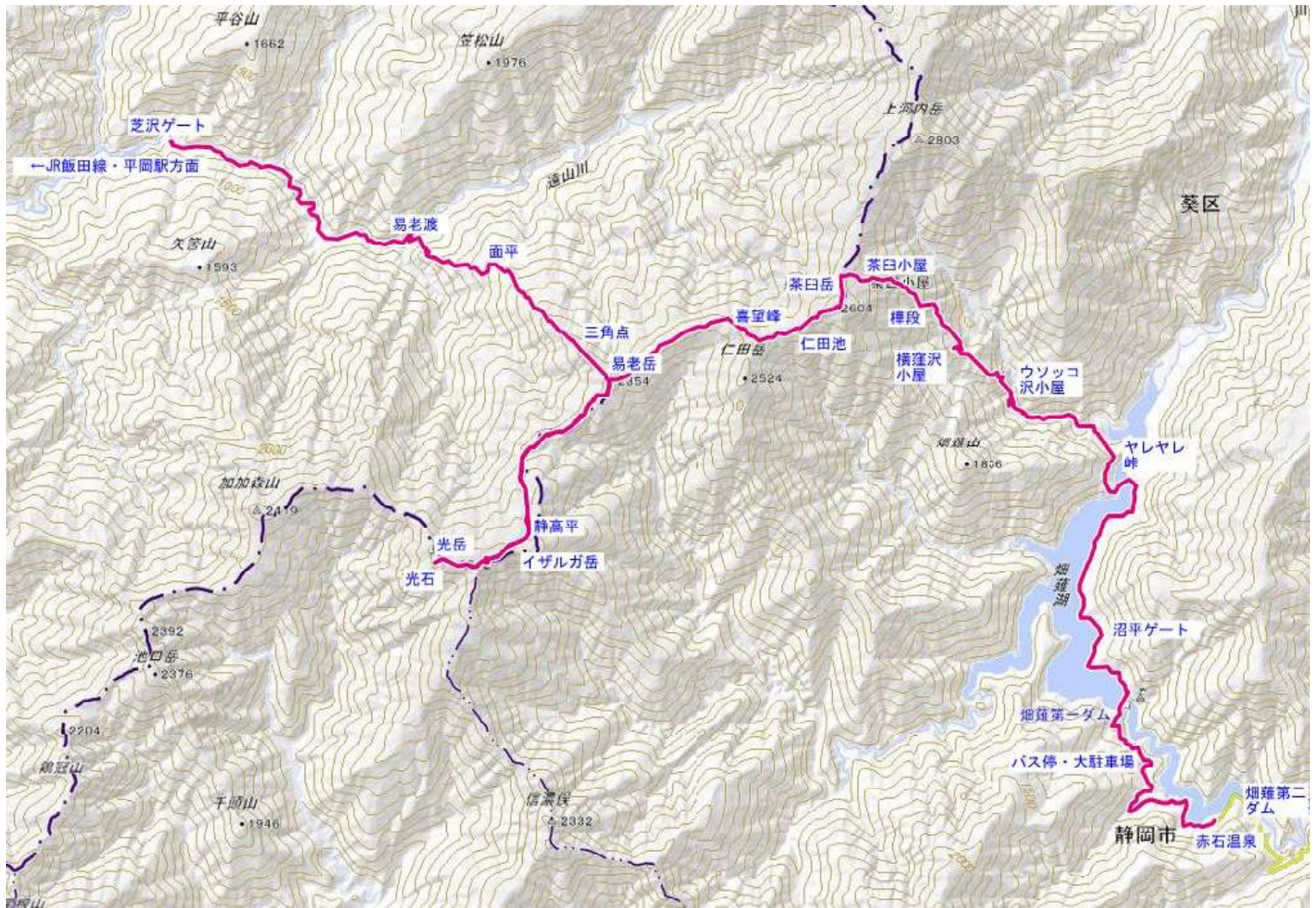
易老渡(04:20)・・・面平(06:20)・・・易老岳(10:20)・・・三吉平(12:00)・・・光岳小屋(13:50)
テント泊

7/26

光岳小屋(05:10)・・・光岳(05:30)・・・光石(05:50)・・・光岳小屋(06:30)・・・三吉平(07:50)・
・・・易老岳(09:30)・・・茶臼岳(12:50)・・・茶臼小屋(13:40)・・・横窪沢小屋(15:30)テント泊

7/27

横窪沢小屋(04:20)・・・ウソッコ沢小屋(05:20)・・・ヤレヤレ峠(07:00)・・・畑薙大吊橋
(07:30)・・・畑薙第一ダム(09:00)・・・赤石温泉・白樺荘(10:30)施設泊



易老渡から赤石温泉への道

交通関係のデータ

● JR 飯田線・平岡駅→芝沢ゲート(道路の一部が崩壊しているため迂回ルートを通る)

遠山タクシー 15210円 (TEL)0260-32-2061

*タクシーの予約は早めにした方が良い。

● 赤石温泉→千頭

大鉄タクシー・千頭営業所 13190円 (TEL)0547-59-2355

*千頭へのタクシーは前日までに予約するほうが良い。

● 川根本町コミュニティバス

千頭→川根温泉ホテルまたは家山で大井川本線に乗ることが出来る。そこから JR 金谷駅につながる。

*バスは一日6便あるが、千頭からタクシーを呼ぶとすれば、あまり早い時間には来てもらえないので、10:55以後のバスを利用するのが良いと思う。

千頭発のバス時刻表「どれも JR 金谷駅行きに接続する」

05:35 07:22 10:55 15:30 17:35 19:30

● 大井川本線には「きかんしゃトーマス号」が走っていて、家族連れが大喜びで乗っていた。